

No.816 IRENA が再生可能エネルギーに関する「REthinking Energy」レポートの第 3 版を発表

2017 年 1 月 23 日

株式会社ユニバーサルエネルギー研究所

技術顧問 堀 雅夫

IRENA（国際再生可能エネルギー機関）は、2017 年 1 月アラブ首長国連邦（UAE）の阿布ダビで開催された第 7 回総会で、調査報告書「REthinking Energy -- Accelerating the Global Energy Transformation」（130 ページ）を発表した。



写真出所 : <http://www.irena.org>

IRENA (International Renewable Energy Agency) は、2011 年発足の再生可能エネルギー（太陽、風力、バイオマス、地熱、水力、海洋利用等）の普及及び持続可能な利用の促進を目的として、分析・検証・体系化、政策上の助言の提供、加盟国の能力開発支援等を行う国際機関。同機関はこれまでフラグシップレポートとして、「REthinking Energy: Towards a new power system」（2014）と「REthinking Energy: Renewable energy and climate change」（2015）を公開してきており、今回のレポートはその 3 版目。

IRENA の下記サイトに今回の報告書のサマリーが掲載されており、フル・レポートのダウンロードのリンクがある。

<http://www.irena.org/menu/index.aspx?mnu=Subcat&PriMenuID=36&CatID=141&SubcatID=3802>

今回のレポートの主なポイントは下記。

- ・ 再生可能エネルギー発電の入札が先進国や開発途上国で実施されており、記録破りの低価格により普及が進んでいる。
- ・ 蓄電池の需要は急速に増加しており、変動的な再エネ電力を統合するのに大きな役割を担っている。世界の蓄電池の設備容量は現在の 1GW 未満から 2030 年の時点で 250GW まで増加する可能性がある。
- ・ これら再エネの導入を補完する電力貯蔵システムのブレークスルーによって、電力供給における再エネ電力のシェアの増大が可能になる。
- ・ 再エネ電力と電池を組み合わせた独立型電力系統「オフグリッド」は、費用対効果に優れたモジュールとして容易に設置できるので非電化地域などで効果的。

IRENA の Adnan Z. Amin 事務局長は「2030 年までに電力のユニバーサル・アクセス（非電化地域の解消）を達成するには世界的に電源設置を加速していく必要がある。この電源の 60%近くは独立型のオフグリッドやミニグリッドによる系統システムで運用する必要がある。この目的達成には、政策・資金調達・技術・組織能力などを適切に組み合わせなければならない」と述べている。